

## 編集後記

『戦史研究年報』第 24 号をお届けします。

巻頭の「史料紹介」では、大正期のスペイン風邪に関する日本陸海軍の史料を掲載しています。

「論文」は、戦史研究センター所属研究者による令和元年度調査研究成果の中から 3 本を掲載しました。清水論文は、第二次世界大戦中の米国情報機関が中国戦域で展開した軍事情報活動について論じたものです。石丸論文は、太平洋戦争における日本海軍の防備体制について対潜戦と機雷戦の観点から考察し、作戦計画の硬直性を指摘したものです。西田論文は、航空自衛隊創設時における航空機配属の決定過程を、内局・三自衛隊のあいだの議論の結果として論じたものです。

「研究会記録」は、元ロンドン大学教授フィリップ・セイビン博士が発表された研究会の記録を掲載しました。1930 年から 1945 年までの時期を対象に、なぜ連合国が航空戦に勝利できたかについて検討したものです。

「活動報告」は、令和 2 年に戦史研究センターが実施した諸活動、史料閲覧室の閲覧状況などを掲載いたしました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大により、国際軍事史学会中止のため「国際会議参加報告」を掲載できなかったといった影響が本号にもありましたことを申し添えます。

最後になりましたが、本号発刊のためにご協力いただきました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

(千々和 泰明)